

【決議事項】 第1号議案 令和5年度事業報告の承認について

令和5年度 事業報告

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

1 概 況

令和5年度事業については、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日から5類感染症に変更されたことにより、計画していた事業はイベント制限なしですべて実施できた。また、富士登山については、令和5年度の富士宮口の登山者数は49,545人で対前年度比119%の増となり、コロナ禍前の令和元年度の水準に回復した。

主要事業である誘客宣伝については、様々な観光施設の情報発信をするとともに、ホームページの充実を図った。今年度もホームページには多数のアクセスがあった。

令和5年度は富士山世界文化遺産登録10周年を記念して実施されたイベント等を積極的にPRし、市内外からの誘客に努めた。

あさぎり高原まつりについては、朝霧地域の施設の回遊性の向上を図るとともに、アウトドアスポーツのメッカとしてのイメージを定着させるため、10月中をまつり実施期間としPRに取り組んだ。まつり期間中あさぎり周遊乗合タクシーの利用を呼びかけ、地域内移動における利便性の向上に努めた。また、昨年につきE-BIKEのレンタル料半額キャンペーンを実施し、E-BIKEの利用促進を図るとともに、あさぎり高原まつり開催に併せ実施しているあさぎりフォトコンテストでは、富士山世界文化遺産登録10周年記念として、「富士山世界文化遺産の構成資産（富士宮市内に限る）」部門を設けた。

そのほか、富士山をはじめ、朝霧高原、白糸ノ滝、田貫湖、芝川の田園風景など美しい自然と、富士山本宮浅間大社・大石寺など由緒ある神社仏閣や食に関する情報を発信した。

また、観光客から好評の観光情報雑誌「るるぶ富士宮」を改訂し3万部増刷した。市内外で配布し、観光案内所やイベント等幅広く活用していく。

地域の食資源を活用したガストロノミーツーリズムについては、富士宮市の旅行商品造成に向けた静岡ガストロツーリズム富士山の麓の旅ワークショップに市内事業者及び市とともに参加し、富士地区観光協議会においては、巨摩地域まちづくり協議会が実施したガストロノミーツーリズムを視察するなど積極的に取り組んだ。

新型コロナウイルスの影響により減少した観光客を呼び戻すために始めた観光プレミアムクーポン「きて宮クーポン」については、令和5年度は観光協会会員の皆さまの事業を後押しすることを目的に、参加施設を観光協会加盟の事業所に限定して発行し、

総額3,000万円分を完売、全国からの誘客を図った。

広域的な取り組みとしては、しずおか富士山利活用推進協議会の中で、東京や大阪で観光物産展を実施し、富士地域全体の観光誘客事業を行った。山小屋の収容人数制限への対応や高齢化社会においても富士山を楽しめるよう、富士下山と周辺エリアにおける回遊プランを提供し、夏山だけでない通年の誘客を促進した。

また、富士山観光交流ビューローと共同で松本市において観光物産展を開催し、富士地域観光振興協議会が実施したシンガポール観光展とエージェント回りに参加した。

事業協力としては、飲食関係では特産品の新規開発事業として実施している「それみやげにして宮」を主催するとともに、観光誘客としては、神田川精霊流し、富士山と中秋の名月を愛でる会のお月見イベント、田貫湖まつり、白糸の滝のライトアップ、富士山の麓のまちの旅コンテスト等に協力した。また、教育関係では、観光まちづくり実証的事業をテーマに富士宮市を調査している東洋大学国際観光学部の佐野ゼミの事業に協力するとともに、静岡県教育委員会が実施する「オンリーワン・ハイスクール」事業に採択されている富士宮北高校と富士宮西高校の地域連携事業に協力した。

富士と琵琶湖を結ぶ会事業については、4年ぶりに一般市民の募集を行い、近江八幡市長、議長、富士と琵琶湖を結ぶ会との交流会を行うとともに、琵琶湖への富士山御霊水献水式など公式行事を実施した。

観光案内業務については、富士宮市や富士山を訪れる観光客をはじめ、電話による相談、照会等様々な方の利用に対応した。外国人の対応としては、英語を話せる職員が対応するとともに、翻訳機を活用するなど、おもてなしに努めた。事務所を兼ねた富士宮駅観光案内所では、各種イベントの情報、旅館、ホテルの紹介、観光施設の案内、絵葉書・カレンダーの販売等を行った。外国人の利用もコロナ禍前の状況に回復したと言える。

夏山登山期間中、表富士宮口五合目登山口で、登山者への装備や登山指導、観光案内を行う「富士登山ナビゲーター」を配置し、遭難事故及び道迷いの防止に努めた。

白糸ノ滝駐車場の利用状況については、乗用車を中心に利用台数が大幅に増加し、安定した運営状況となった。白糸ノ滝駐車場は観光案内所の機能も併せ持つため、訪れる観光客に休憩環境を提供するとともに、北部地域の観光案内の拠点として観光施設等のパンフレット等を備え情報提供した。また、各種メディアを通じての誘客宣伝による白糸ノ滝への観光PRなどを実施した。